

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人浜松医科大学

1 全体評価

浜松医科大学は、優れた臨床医と独創力に富む研究者の養成、独創的研究及び新しい医療技術の開発の推進並びに患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たすことにより人類の健康と福祉に貢献することを目指している。第3期中期目標期間においては、地域社会に貢献できる医師・看護専門職の養成及び世界に発信できる研究者の育成、光技術と他の先進的技術の融合による新しい医療技術の開発推進、地域医療の中核病院として高度で安心・安全な医療の提供及び地域社会のニーズと個々の病院機能に応じた医療ネットワークの構築による地域医療の充実、光技術等を活用した特色ある研究を基盤とした実用化開発の推進等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、先進的な光医学研究を推進するための拠点形成するとともに、企画室の再編により機能強化に向けた体制を構築するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 質量顕微鏡研究拠点として世界に展開するとともに人材育成を推進するために、新たに国際マスイメージングセンターを設置している。同センター及び平成28年1月に設置した光先端医学教育研究センターを活用して研究・開発を推進しており、医療への利用を目的としたヒト甲状腺イメージングを行う光CT装置の実用化のための試作機の作製等を実施している。（ユニット「光医学教育研究拠点形成事業」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 企画室の再編による機能強化に向けた体制の構築

機能強化に向けた体制を構築するため、7つの企画室（教育、情報・広報、研究推進、総務、経営、病院運営及び調査・労務）の機能・役割を見直し、5つの企画室（教育、総務、研究推進、病院運営及び評価・労務）に再編した結果、会議時間が大幅に削減されるなど、運営の効率化が図られるとともに、再編に合わせて多くの教員が構成員として予算編成等の業務運営に参画することで、広く教員の意見を取り入れることを可能としている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 財務分析に基づく積極的な資金運用

従来は月毎に行っていた余裕資金状況の把握を毎日行うようにすることで運用可能な財源の洗い出しや運用可能額の分析をより精緻に行うとともに、定期預金より効果的な地方債による運用を開始している。併せて、定期預金についても市中銀行より利率の高いネットバンクによる運用を行った結果、急激な金利低下の状況にあって約240万円の運用益を確保している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

① 評価の充実

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学長・理事による教員面談を踏まえた業務改善

大学運営に必要な共通認識を深めるため、学長及び理事が医学科各講座や光先端医学教育研究センターの教授等に対して、中期目標・中期計画や教員評価等に関する事前アンケート等に基づき、教育・研究の現況や今後の見通し等についての面談を実施している。面談の実施により、各教員に対して中期目標・中期計画の意識付けを図るとともに、面談において各教員から寄せられた意見や要望に基づき、手当の引き上げやカリキュラムの見直し等を行っている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

① 施設設備の整備・活用等 ② 安全管理 ③ 法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 先進的な光医学研究を推進するための拠点形成

世界の質量顕微鏡研究拠点として世界に展開するとともに人材育成を推進するため「国際マスイメージングセンター」を新設し、光先端医学教育研究センターと国際マスイメージングセンターにおいて種類・目的に応じて管理しているイメージング装置群からなるイメージングコンプレックス体制を活用して研究・開発を推進しており、医療への利用を目的としたヒト甲状腺イメージングを行う光CT装置の実用化のための試作機作製等を実施している。

○ 研究支援体制を強化するための新たな職位の創設

イメージング装置群を活用した研究支援体制のさらなる強化を図るため、個々の装置や実験方法に関する高度な知識及び能力を併せ持ち、さらにそれらを用いた多角的な実験プランを、研究者の立場に立って提案できる研究支援者として、博士号を持った研究技術職員（University Research Technician ; URT）の制度を創設しており、2名の採用を決定している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 総合診療教育研究センターの設置等による地域医療教育の充実

プライマリ・ケアができる総合診療医の養成と地域への定着を促進するため、総合診療教育研究センターを新たに設置し、学部生の教育、附属病院の初期研修プログラム、専門研修プログラムに係る管理・運営・支援、地域との連携・調整等を行うなど、静岡県における地域医療教育の充実を図っている。

（運営面）

○ 意見交換会の実施等による地域医療連携体制の強化に向けた取組の実施

浜松市内の回復期病院や療養型病院の病院長・看護部長・事務長との意見交換会（15医療機関、42名が参加）を開催し、転院に関する現状確認と課題の整理を行い、転院時の情報提供シートを作成して後方支援病院とのスムーズな転院調整の実現に取り組んだ結果、転院件数が598件（対前年度比30件増）となるなど、後方支援病院との地域医療連携体制の強化が図られている。